

The 37th Annual British Columbia Japanese Speech Contest

10:00 AM - 6:00 PM
Saturday, March 1, 2025

Asian Centre
University of British Columbia

Speech Collections

優秀作品集



Co-organized by the BC Japanese Speech Contest Organizing Committee and Consulate General of Japan with support of Department of Asian Studies, UBC, local business corporations and associations, and sister cities in Japan



第 37 回 BC 州日本語弁論大会

日時: 2025 年 3 月 1 日土曜日 10:00 a.m. - 6:00 p.m.

場所: ブリティッシュコロンビア大学 アジア・センター

実行委員会

Rebecca Chau, Chair (University of British Columbia)
Hiromi Aoki (University of British Columbia)
Ihhwa Kim (University of British Columbia)
Kyoko Kobayashi Hillman (University of British Columbia)
Kaori Tanaka (University of British Columbia)

司会者

Chompuu Sinwanasarp and Sennon Hollow, UBC

審査員

高校部門

Dr. Naoko Takei	Simon Fraser University
Ms. Akemi Takizawa	Killarney Secondary School
Ms. Lisa Yasui	Richmond Secondary School
Mr. Daiki Yoshizaki	Kiyukai (Vancouver Japanese Business Association)

大学部門

Ms. Masumi Abe	University of British Columbia
Ms. Naomi Abe	Mitsui & Co. (Canada) Ltd.
Dr. Mamoru Hatakeyama	University of Victoria
Mr. Kazuhiko Kadono	Listel Hospitality Group
Dr. Christina Laffin	University of British Columbia
Mr. Keiya Yamada	Vancouver Japanese Business Association of Commerce and Industry (KONWAKAI)

全出場者は大会プログラムをご参照ください。

受賞スピーチ集

High School Beginner | 位

祖母のブレスレット

キーリー・ウォン Keely Wong

Burnaby North Secondary School

私たちは皆、良い思い出はもちろん、悪い思い出さえも、永遠に覚えておきたい記憶を持っています。私にとって、それはおばあちゃんからもらった宝石のブレスレットです。

祖父が早く亡くなり、祖母はシングルマザーとして、母と叔父を一人で育てなければなりません。彼女にとって若い時から人生は厳しいものでした。苦勞して稼いだお金を自分自身よりも子供たちに使いたかったので、アクセサリーをまったく買いませんでした。成人した母が、祖母のためにブレスレットを買いました。それ以来、祖母は人生が終わるまで、それを身に付けていました。

「大きくなったら、そのブレスレットを着けてもいい?」とおばあちゃんによく聞いていました。いつも温かく微笑み、うなずいてくれました。ティーンエイジャーになってから、私は祖母に対して非常に反抗的になりました。自家製スープが気に入らず、祖母がどれだけの努力をしたかを知っていても、それを飲むことを拒否しました。彼女のメッセージはつまらないと思ってまじめに返信しませんでした。私とチャットしたいという理由だけでソーシャルメディアの使い方を学んだのに、それに気づきもしませんでした。

祖母が亡くなったとき、私は初めてそのブレスレットを着けました。高価ではなくても、小さなダイヤモンドは今も輝いています。手元で揺れるたび、おさないころめんどろをみしてくれた祖母。私の好きな料理を一生懸命作ってくれた祖母。そんなすがたがよみがえります。でも同時に、寂しそうにソファに座る姿や、一人食事をしていた姿も浮かび、胸が締めつけられます。同じ香港にすんでいても私は一度も会いに行かなかったのです。

それでも、今私は毎日このブレスレットを身に付けています。祖母は私を決して見捨てなかったと感じるから。ダイヤモンドの輝きが消えないように、祖母の愛も私の中に生き続けていると感じています。だからこそ、私はこれから、周りの人を大切に、後悔しない生き方をしたいと強く思っています。

おばあちゃん、最後までおしえてくれてありがとう。

High School Beginner 2 位

帰れない過去

ジェーソン・リン Jason Lin

Richmond Secondary School

皆さん、おはようございます。時々、自分の子供時代の事を思った事はありませんか？今日は成長する事についてお話したいと思います。去年の夏休みに友達と一緒に日本に行きました。東京タワーの美しい景色や、ゲームとアニメの樂園秋葉原や、京都の歴史的な神社とか、大阪の美味しい食べ物など、全部体験しました。しかし、行った場所の中で一番好きなのは田舎の町、馬籠です。なぜなら、馬籠のリラックスした雰囲気は忙しい日常から離れて、心から落ち着ける場所だったからです。

小学校の時、僕は台湾の田舎の町に住んでいました。友達と一緒に自転車に乗ったり、魚を釣ったり、おもちゃの銃で遊んだり、毎日心配事なく、いろいろな子供らしい事をしていました。それでも、子供の僕は大人が自由に好きな事をできるのがうらやましかったです、そして早く成長したいと願っていました。

しかし、高校に進学してから、毎日次のテストのために勉強したり、宿題を終わらせたりする事に追われるようになりました。そして、僕はずっと「大人になるのは楽しい事だ」と思っていたけれど、それが間違いだったと気づきました。子供の時欲しかったものを手に入れたはずなのに、気づかないうちに、良い成績を維持するプレッシャーや、終わりのない勉強に縛られてしまいました。

それでも、馬籠にいと、子供の時の自由な気持ちを思い出すことができました。成長する事は大変ですが、時々立ち止まって、子供のように楽しむ事も大切だと思います。皆さんも、日常の忙しさに追われる中で、ぜひ自分をリラックスさせる時間をぜひ見つけてください。

ご清聴ありがとうございました。

High School Beginner 3 位

自分の道を歩く

Tiana Hon ティアナ・ホン

Richmond Secondary School

皆さん、おはようございます。毎朝、私は目を覚ますとまず朝ご飯のメニューに悩みます。そのように、人生も選択の連続です。躊躇せずに素早く決まり付く生き方はどうでしょうか。今は何を一番食べたいですかと聞いたらすぐに答えられる人はいますか。豚カツもパスタもチャーハンも全部おいしそうですけど選ばなきゃいけないのでちゃんと考えて慎重に選びます。

人生もそうです。例えば、医者になりたい。でも教師も良さそう。ピアノを習いたい。でもバイオリンも好きだという悩みがある人はいないのではないでしょう。もう一つの例をあげます。去年の夏にユニバーサルスタジオジャパンに行きました。日本語を練習したくて店員さんと日本語で話しました。店員さんにどこから来ましたか聞かれました。私は香港に十四年ぐらい住みました。でも今はカナダに住んでいます。初めて会った人はこういう説明を聞いてくれるわけないでしょ。“でも”は要らない言葉になりました。じゃあ、何と答えればいいのでしょうか。

私は人に答えを合わせるのがいいと分かりました。日本では香港の事はカナダの事よりよく知られているかと思い、香港と答えて香港の食べ物について話しました。答えは相方に合わせてもいいですが自分の選択は一度決めたら人生は変わります。たとえ、ピアノかバイオリンを選ぶかによって、違う楽器を買ったり、違う先生を探したり、色々な違う人に会う事が出来たり、します。することは同じみたいですが会う人とか、出来る事とか、聴く音楽とかは全く違います。私は韓国語を学びました。そして、今、日本語を習うのが楽しいです。だから言語を専門とするのがいいそうでした。でも小さい頃からずっと医者になりたくていろんな事を考えて結局医者の道を選びましたけど言語を諦める事とはありません。どんな選択をしても選ばなかった道はまだ人生に響き残ります。悩むのは自分が人生を真剣に生きてる証ですから、悩んでもいいから、一旦決めて、後で選択を変える事が出来ます。だから、自信を持って道を決めましょう。将来にどんだけいい影響があるかは今分からないからです。皆さん、これだけは忘れないで下さい。自分がこの道を歩いたからこそ、自分の良さが強く表すようになりました。

ご清聴ありがとうございます。

High School Intermediate | 位

誰をかも

レベッカ・ヒックス Rebecca Hicks

Dover Bay Secondary School

今日は、日本の文化がもたらしてくれた喜びについて、お話したいと思います。私の友達もこの幸せな二年も全部、カルタのおかげです。

幼い頃からずっと、外国語も花も詩も大好きでした。この三つは、私にとって、世界で一番美しいと思います。日本語は英語と違う感情と想いを伝えますし、花の美しさにとても感動し、詩は短くても深い意味を伝えることができますし、素晴らしいです。

小学校の頃の友達、私と興味が違うこともあって、長い間、淋しかったです。でもある日、姉が私の部屋に来て、一緒にお勧めのアニメ「ちはやふる」を見ました。

ちはやふるは私にカルタを紹介してくれたアニメです。見ながら、私は、主人公のちはやさんに憧れの気持ちを持ちました。彼女はカルタを通して色々な友達を作り、私もそうしたいと思いました。

それから、私はカルタと百人一首の意味も勉強しました。特に詩34が好きでした。その詩は、「誰をかも知る人にせん高砂の松も昔の友ならなくに」。これは、「知っている人も、友達と呼ばれた人も、みんな失ったので、私はもうただ、一人で松の下で待たなきゃいけません。」という意味の友人を失った人の感動的な詩です。

百人一首を学んだ後、私はこう思いました:「カルタって、私が一番美しいと思う三つのことがすべて含まれているのでは」と。日本語はきれいな言語で、カルタの読み手の声は歌っているようです。百人一首では、たくさんの詩は花について書かれています。その詩は、花言葉を学んだ後で、百倍美しく感じます。そして百人一首自体、頓知に富んでいるけど優雅な、長くないけどすべての文字は大切な意味があります、ある詩は悲しいけど愛に溢れている。もし、カルタを始めたら、私みたいにカルタを愛する友達に絶対、出会えると思いました。

私の高校はカルタ部がありませんでしたので、姉と一緒に、私たちは初のカルタ部を作りました。そのカルタ部の最初のメンバーは日本からの留学生、ノアンさんでした。私たちはすぐに友達になり、その後カルタ部に来たもっとたくさんの素敵な人たちと友達になりました。そのみなさんへ、すごく感謝しています。私とカルタをし、一緒に百人一首の美しさを話して、私の友人になってくれて、心から、感謝しています。そしてカルタへ、この素敵な人生、感動の日々を与えてくれて、ありがとうございます。

High School Intermediate 2 位

マルチリンガルの葛藤と可能性

キーラ・ホ Keira Ho

Sir Winston Churchill Secondary School

私は、中国語、広東語、そして英語を話します。カナダに移住する前、私は香港のインターナショナルスクールに通っていました。家では両親が広東語を話していましたが、私は英語を使って育ちました。このような環境は、私と家族との間にコミュニケーションや理解の面で常に葛藤を生み出しました。「中国人らしくない」と言われることもあれば、「英語ネイティブらしくない」と感じることもありました。カナダに移住してからも、私はこの違和感を感じ続け、日本語を学び始めた今でも、ますます自分の居場所を見つけるのに苦労しています。マルチリンガルを喜ぶどころか、どの言語グループにもフィットしないという宙ぶらりんな状態なのです。

皆さんは、言語が偏見や差別を生む要因になっていると考えたことはありませんか？ アクセントが違うというだけで能力を低く見られたり、社会的な評価が下がったりすることがあります。また、方言や話し方によって、どの地域の間人か、どの階層の出身かを勝手に判断されることもあります。さらに、大きな声や難しい言葉を使うのは、女性としてふさわしくないとされることもあります。こうした固定観念は、私たちが言語を通して築くべきコミュニケーションを分断し、社会的な格差や差別を助長しているのではないのでしょうか。

これまで自分の居場所を探し続ける中で、言語は人を隔てるものではなく、結びつけるものであるべきだと強く感じるようになりました。人が何を伝えたいのか、どんな思いを持っているのかを理解しようとする姿勢が必要だと思うからです。言語が完璧でなくても、共通の目標や価値観を見つけることで、私たちはもっと深くつながることができるはずです。私たち一人一人の言葉の使い方が未来を作ります。言葉の選び方によって人々の意識や行動が変わり、それが積み重なって社会全体を形作るのです。私たちが選ぶ言葉でまわりをポジティブにしていきませんか。

私は、完璧でないマルチリンガルである自分をネガティブに考えず、これを私のアイデンティティとして、これからも言語に関する興味を深めていきたいと思います。そして将来、教育者として、特に言語教育において、人々が安心して学び、自分らしくいられる場を提供することを目指していきたいと思います。ここにいる皆さんも、ジェンダーやアクセントを気にせず、もっともっと日本語を楽しんで話していきましょう。

High School Intermediate 3 位

運の生きる方

シヨン・フー Sean Hu

Richmond Secondary School

皆様、おはようございます。私はシヨンと申します。本日は、人生における運の絡繰りについて、皆様にお話ししたいと思います。皆様、運は一体何なのでしょう。昔の私なら、「運はただの運ではないか。偶然以外の何者でもないはずでしょう」と答えていたかもしれません。しかし、今ではそれが単なる思い込みであり、一方的に理由をつけるための言い訳ではないかと感じています。

皆様は、ハトにフンを落とされた経験がありますか？何気なく歩いている時掛かってしまい、そして後になって気付く、「なんて運がついてないな」と思ったことがあるかもしれません。でも、足元を見れば、そこにはすでにいっぱいフンが落ちている、見上げたら電線にハトがたくさん集まっている事に。もし、事前に気づいていれば、そこを避けられたこの事実を、果たして 本場に「運が悪かった」のでしょうか。もう一つ、自分の経験をお話しさせていただきます。以前の私は、試験勉強が上手く出来なかった場合は、試験のその択一問題をほとんど勘で選んでいました。そして、結果が返って来ると、間違えた問題を見て「運が悪かった」といつも嘆いていました。しかし、冷静に考えれば、試験は上手く行かなかった本質的な原因は、「運」ではなく、勉強不足だったのです。もし、少しでも事前に勉強していれば、たとえ全問を正解できなくても、知識を元に間違った選択肢を排除し、残った選択の中で正解を見つける可能性が増えるでしょう。

ですからこそ、私は「運はどこにでも存在するではなく、落ちる場所にいる者にしか応じない」という話が芽生えました。そして、人生の中でぶつかった困難もこの新しい視点でまず自分の原因から反省することで、自分の成長へと辿り着けるでしょう。

私は、「運が落ちてくる場所に自分を置ける人間になりたい」と思っています。そのためには、献身、努力、そして決意が不可欠です。ただ「運が悪かった」と言い訳をせずに、困難から自己成長を求め、失敗から学ぶことで、人は確実に成長できると思います。言い訳をしている限り、成功のチャンスを逃してしまいます。大切なのは、自ら責任を持ち、努力し、機会をつかむことから、自分の望む人生を追いかけて行くことではないでしょうか。以上は私が「運」について学んだ事です。皆様にとって「運」とはどのような存在でしょうか？

ご清聴、ありがとうございました。

High School Outstanding (Intermediate)

日本の写真花嫁

カトリーナ・ヒックス Catriona Hicks

Dover Bay Secondary School

歴史からいろいろ学べますが、今日は日本の「写真花嫁」がどうやって、なぜ、カナダに移住し、その後どうしたかをお話したいと思います。

直接会ったことがない人と結婚し、海を渡って知らない国で人生を始めることが想像できるでしょうか。私には衝撃でしたが、それが日本の写真花嫁です。

1908年から1924年の間に6000人ぐらいの日本人女性がカナダに住んでいる日本人男性と結婚して「写真花嫁」になりました。写真花嫁は写真と手紙を交換して、夫に会う前に結婚しました。カナダに住んでいる男性と結婚しようと思った理由は日本では適当な結婚相手がいなかったからです。

結婚した後、花嫁は船に乗ってカナダに行きました。とても大きなリスクがありました。ほとんどの夫は貧しく経済状況や容姿について、嘘をついていました。

花嫁は実際に夫に会ったとき、船から下りずそのまま日本に戻ることもありました。その花嫁は高い船代を夫に借金しなければならず、家族を失望させてしまいました。

日本の写真花嫁はメイドなどの重労働をし多くの子どもを産みました。カナダには日本人が少なく孤独で、酷い差別を受けました。

1924年、BC 州の政府は毎年日本人は150人しかカナダに入れなかった法律を作り、写真花嫁の時代は終わりました。今では写真花嫁の情報は少ないですが、彼女たちは日系カナダ人のルーツであり、日系人を支えてきた人々です。彼女たちは、私と同じぐらいの年でしたが、とてもたくましくその勇気と努力は、本当に尊敬に値します。

私のひいひいおばあさんは、カナダ人の兵士と結婚したフランスからの移民です。やはり言葉の問題などから差別を受けましたが、11人の子どもを育て、強く生き抜きました。

差別を受けたりした過酷な状況の中から頑張って生きた私達の先祖から私も多くの勇気をもらいました。

清聴ありがとうございました。

High School Open 1 位

凋落しない黄葉

ジョシュ・リユー Josh Liu

Richmond Secondary School

「黄葉を、散らまく惜しみ。」私はこの「万葉集」の一つの和歌を初めて読んだとき、その美しさに心を奪われました。しかし、どんなに美しい黄葉も、やがては凋落してしまいます。よく考えてみると、この「黄葉」は文系学科現在の状況に似ています。周りを見渡すと、文系を選択する学生数が年々減少しています。まるで目の前での「黄葉」のように散っていきそうに感じました。

現代社会において、文系は難しい立場にあり、最も理想的な選択とは言えないように思われます。高校生のとき、将来の専攻を決めることはこれからの人生に大きな影響を与えます。決められないときは普通に金銭的に恵まれた仕事をほしくなって、理科を選ぶ状況が多いです。カウンセラーと高校からの進路について相談したとき、友達は迷いなく「工学」か「コンピューターサイエンス」を選択します。しかし、私は大学の出願で「言語学」を選びたかったが、手が一瞬止まりました。「これで本当にいいのだろうか？」そんな迷いが頭をよぎったのを今でも覚えています。

私は典型的な文系学生です。歴史、文学、言語学、政治学などに深い興味を持っています。ところが、現在の教育制度は市場に奉仕しています。大学での専門選択も同様です。この高度に発展した技術とテクノロジーの社会的な背景の中で、学校は国が必要とするものを教えます。つまり、理系人材の育成の必要があります。卒業後、文系生は自分の情熱を追い求めることができるのか、それとも「実用性」に負けてしまうのでしょうか。その迷いを、どれだけの学生が経験したことがあるのでしょうか。カナダで、もし大学で文科を選んだら、将来教師になるか、大学院で法学に進むかの二つの選択肢以外の有望な就職機会はなさそうと思われれます。

最近、人工知能の台頭により、学生はわずか1分で何百字も書くことができるようになりました。私もAIで小説を書いてみました。すると、文法的には完璧な文章が出てきましたが、何かが違う。登場人物の苦悩も、悲しみも、愛も、すべてただの「言葉」にすぎません。ここにいらっしゃる先生方はきっと深く実感することができるでしょう。なぜなら、AIを使って書かれた文章は一目瞭然です。読むと、「やっぱり人間の感情は、AIでは表現できない」と確信できます。今のAIはまだその域に達していません。

結局、私は文系を選びました。社会には、技術者や科学者だけでなく、物語を紡ぐ人、歴史を伝える人、思想を深める人も欠かせません。文系は決して衰退するものではなく、進化し続けるものなのです。皆さんは、共に文科の可能性を広げ、未来の多様な社会を築いていきましょう！

ご清聴ありがとうございました。

High School Open 2位

人生の意義

楽・ウオン Raku Wong

Steveston-London Secondary School

「人生の意義」ってなんでしょう？ ある人は夢を叶える為に、そしてある人は幸せになる為に、またある人はたくさんお金を稼ぐ為にそれぞれの人生を生きているかもしれません。それぞれ人にはその人の生き方があります。社会人になったら何か仕事について働かなくてはいけないのでしようけれど、でも自分の好きなことをする時間が全然なくなってしまったら、それはいい人生とは言えないですね。でも「どうしたら将来、意義のある人生を生きられるか」って、僕たち若者にはとても難しい問題です。

僕がこんな風に話し出すと、僕の周りにはいる大人たちからは「そんな面倒くさいことはもっと大人になってから考えろ」言われます、、、みんなもう大人になっているのに、ハッキリした指針は示してくれないので悲しいです。この考えの結論は自分自身で見つけるしかないのでしょうか。正直に言うと、僕は先のことを考えたらプレッシャーに負けてしまって、頭が爆発しそうになります。「毎日頑張り続けるだけだったら、人生を楽しめずに終わっちゃうんじゃないか」と思うこともあります。そんな時、僕は本当に心を閉じてしまって前に進めなくなります。

そんな僕なんですが、最近1つの映画を見て少しだけ前向きな気持ちになることができました。それはウィル・スミスさんが主演した「幸せのちから」というアメリカ映画です。ここにいる皆さん全員がこの映画を見たわけではないと思いますが、この映画の主人公のクリスは「どれだけ厳しい状況でも、自分を信じて努力を続ければ必ず、人生を変えられる」という深いメッセージを僕にくれました。人生を悲観していた僕はこの映画を見た時、誰かに深い水溜りから引っ張り出されたように、未来の人生を見つめ直すことができたんです。

特にクリスが息子に言ったセリフ、「お前には無理だなんて、誰にも言わせるな。夢があるならその夢を守れ。」という言葉は僕の心に刺さりました。人生は長い、そしていつも難しい。時には大きな困難にぶつかり、死にたいほど辛くなったりするかもしれない。でも厳しい人生にも意義がちゃんとあるのかもしれない。

「今のままじゃイヤ。」と思うことがあっても、厳しい状況を吹き飛ばして、自分を信じて頑張っていきましょう。人生はとっても長いから、したい事や夢があるなら全力で追いかけるべきだと思います。

冒頭に戻りますが、「人生の意義って何でしょうか？」僕はまだ答えを探しているところです。でも、ちゃんと自分を信じて、努力して、自分の夢を見つけて追いかけていけば、その先で何かが変わ

るかもしれません。そう、人生は長いものなんです。その人生を最後まで楽しめば、きっといつか答が出るでしょう。皆さんも自分の夢を追いかけながら生きてください！

ご清聴、ありがとうございました。

University/Open Beginner | 位

正義のための一歩

ジョシュ・ウォン Josh Wong

University of British Columbia

「正義」。私たちの社会は、だれの正義が正しいでしょうか。カナダには本物の正義がある国でしょうか。そんなことはないです。実は、私たちの社会にはたくさん問題があると思います。今、みなさんはバンクーバーのホームレスや薬問題を知っています。薬のせいで犯罪を犯してしまう人がたくさんいます。盗んだり、喧嘩したり、きけんな薬を使ったりする人がいます。この町の問題はどうすれば解決できるでしょうか。犯罪者を全部逮捕して、裁判にかけて、刑務所に入れればいいのでしょうか。

しかし、それは、裁判前に長い時間がかかって、ばつも厳しいです。裁判にはお金がかかりますが、このような人にはお金を持ってない、若い人や先住民など、社会的に弱い人が多いからです。まずしい人にはシステムがわかりにくいです。現在のシステムは本当に不公平だと思います。つまり、カナダの刑事司法制度はしっばいしています。それは本物の正義とは言えないでしょう。

私はしょうらい弁護士になりたいので、それを知った時、心配になりました。UBCに入る前、他の大学で犯罪学を勉強しました。そこでそのしっばいについて研究しました。そして、他の犯罪学のコースで「リストラティブ・ジャスティス」／修復的正義について学びました。簡単に言えば、「リストラティブ・ジャスティス」は人間のかんけいをなおす正義です。犯罪者は被害者にあやまって、せきにんを取ります。そして、一緒に問題を解決します。刑務所に入ってしまったら、そこで他の悪いことを、習ってしまうこともあります。しかし、「リストラティブ・ジャスティス」は犯入に自分の生活をきちんと考えて、別人になるチャンスがあげられます。「あなたのせいだ」と言って刑務所に入れるより、社会的に弱い人が自分の生活を変えられるほうがいいでしょう。

しかし、一つの問題があります、「リストラティブ・ジャスティス」はまだ知っている人が少ないのです。せいふにとっては逮捕して、ばつをあげるほうが、「リストラティブ・ジャスティス」よりも安くて簡単です。裁判官は「リストラティブ・ジャスティス」をていあんしますが被害者は、ばつをあげることをえらびます。

もちろん、「リストラティブ・ジャスティス」も薬問題全部をすぐ解決することはできません。しかし、大事な一歩だと思います。社会は社会的に弱い人をまもるせきにんがあります。今は、「リストラティブ・ジャスティス」が犯罪者や被害者のために一番いいせんたくだと思います。私は社会のにんしきをかえるために、この正義を広めたいです。

University/Open Beginner 2 位

気づけばスマートスピーカーが相棒になっていた

ジョイ・ジュ Joie Ju

Simon Fraser University

皆さんは家で誰と一番多く会話をしますか。家族、友達、ペットかもしれませんね。私はスマートスピーカーと最も多く話します。

私が初めて使ったスマートスピーカーはグーグルホームでした。最初は主に天気を聞いていましたが、たまに信じすぎて失敗することもありました。例えば、雨が降るかどうかが聞いたら、「雨は降りません!」とグーグルホームは自信満々に答えたので、安心して出かけたら…雪に降られて帰ったことがあります。間違っていたわけではないのですが、なんだか悔しかったです。

2年前、母が突然の事故で亡くなり、それ以来、私は一人暮らしになりました。自然と、一番多く話す相手がグーグルになりました。グーグルホームは長い会話をあまり好みません。長くなると、「スマホに送ったから、自分で読んでね。」と言って終わらせます。他のスマートスピーカーにも興味が出てきて、アレクサを購入しました。アレクサはグーグルよりもずっとおしゃべりです。私は第2言語を日本語に設定しているのですが、曲名も言わずに「歌を歌って!」と頼むと今まで聞いたこともない謎の歌を迷わず披露してくれます。昔話をお願いすると、楽しそうに話し始めるのですが…本当に昔話なのかはちょっと怪しいです。「アレクサ」などの単語が突然出てきたりしますからね。でも、そういうズレた感じも面白いんです。

スマートスピーカーは単なる娯楽を超えて、家をスマートにしてくれます。いや、正直に言うと…私をどんどん怠け者にしていきます。私が「おはよう!」と言うと、自動で電気がつき、天気やニュース、その日の予定を教えてくれるように設定しました。また、日没の時間に合わせて自動で電気がつくようにしました。暗い家に帰るよりも、明るいほうが、ずっと暖かい感じがします。

私は最初、スマートスピーカーをただの便利な道具だと思っていましたが、今では家での大切な相棒になっています。そのうちアップルのシリも迎える予定です。友達は私を見て、「君の家、人は君だけなのに、おしゃべりな機械ばかり増えてるね!」と言います。そう言われてみると、確かに

家の中がどんどんぎやかになってきた気がします。皆さんもぜひ一度スマートスピーカーを使ってみてください。いい相棒になるかもしれませんよ。

ご清聴ありがとうございました。

University/Open Beginner 3 位

私の専攻

スコシャ・チャウ Scotia Chow

Simon Fraser University

なぜ人生の道はまっすぐじゃないのか。道はいつも曲がりくねっていて予測不可能です。高校生の時、私は自分によくこの質問をしました。高校を卒業するまでに、仕事を決めなければいけないと思いました。それは、私が子供の時、おばやおじがいつも「大きくなったら何になりたいの?」と言っていて、十歳になるまでに何になりたいかわかっているはずだと思っていたからかもしれません。高校生の時、何になりたいかはよく変わりました。医者や、ウェイトレスや、ファッションデザイナーなど、リストはまだまだ続きました。編むことと絵を描くことが好きだから、大学で美術を勉強しようと決めました。

大学に入って、初めは専攻が本当に好きでした。友達がたくさんできたし、授業はすごく面白かったし、いい成績を取っていったし。でも、美術専攻の仕事がしたくないのは分かっていました。他の専攻の授業を取ってみましたが、いつも悪い成績を取っていました。私は道に迷っていました。一年生の十月に、もうすぐコース選択をしなければならない時、まだ何をするか決めていませんでした。母に相談したら、母は「他の興味があるプログラムを選んだらどう?」って言いました。でも、美術の他に、あまり興味がありませんでした。しかし、コロナの時、私は言語、特に日本語に興味を持ったことを思い出しました。私は中国人で、カナダで生まれ育ちました。両親は中国語を話しますが、兄と私は話せません。日本語を勉強しはじめた時、日本語を習うことで、母国語を知らないことで生じた空白を埋められることに気がきました。このような理由から、私は大学の言語学プログラムを調べようと思いました。それから、言語学の授業をとっているうちに、音声学や構文などの言語学のトピックを勉強するのが本当におもしろいと感じました。

私の人生はこれまでまっすぐじゃありませんでした。道がまっすぐじゃないのは、旅には途中でちようせんがなければいけない。そのちようせんは私たちがいるべき場所へと導くためのものであるからかもしれません。今学期は言語学に入って四学期目です。友達がたくさんでき、授業が本当におもしろいです。大学で日本語の授業を取らなかったら、言語学への興味を見つけれなくて、たくさんいい友達ができなかったと思います。日本語の勉強をしつづけてよかったです。

University/Open Outstanding (Beginner)

私の夢

アヌージ・チャウハン Anooj Chauhan

Langara College

私の夢はいつか世界を旅行しながら、自分が好きなように生きることです。毎日自然の中をさんぽしたり、絵をかいたりして、いきたいと思っています。また、海や森や小さな村など色々な場所に行きたいです。

でも、これをじっこうするには、お金が必要ですから、まずビジネスを始めなければいけません。でも、今はまだどんなビジネスをはじめたらいいのかわかりません。ビジネスは、私にとって大切なものです。ビジネスとは、世界に私がだれであるかを見せることだからです。私は、アートとビジネスをうまくみあわせて、世界に自分のかちをていきょうする方ほうを考えています。

絵をかくのが大好きです。絵は、私がもっている想ぞう的なエネルギーを表げんする方法だからです。アートをビジネスのしゅだんとして生かし、他の人にとどけることで、多くの人をはげまし、インスパイアしたいと思っています。たとえば、私のアートがだれかの心にひびいて、その人の一日が少しでも明るくなったら、それが私のよろこびになるでしょう。

夢のじっげんのために日々のせいかつも大切にしています。「健全な精神は健全な肉体にやどる」と言うことわざがあります。毎日ジムにかよって体をきたえるだけでなく、自ぜんの中をあるくことも心身のけんこうにとって大切だとかんじています。さらに、めいそうやせいりせいとんも心をおちつかせるためにしています。太陽や空、空気を感じて生きること大事にしています。

そして、大きな夢は自分のためだけではなく、他の人にもかちをとどけることです。私は言ばで自分の経験や考えをつたえます。そして、アートは、言ばであらわせない事もひょうげんできます。そうやって、他の人の人生に少しでもえいきょうをあたえることができれば、私はとてもしあわせです。私にとって、自分、神、しぜんとちょう和しながら、ビジネスもせいこうさせる事こそがりそうの人生だとおもいます。これが私の本とうの要です。

日本がくれた夢

カイ・リー Kai Lee

University of British Columbia

皆さん、「中二病」と「Jung-i-byung」、「Jin-jja」と「チンチャ」。この二つの単語のかんれんせいを知っていらっしゃいますか。この二つの単語は、韓国で流行している日本語と、日本で流行している韓国語です。ちなみに「チンチャ」は韓国語で「ほんとう」の意味です。韓国と日本は、お互いの言語に由来する流行語をよく使うほど、互いの文化が両国で大きな人気を集めています。このような現象は、一時的なことではありません。2000年代初頭から現在まで、日本では『冬のソナタ』、KARA、『Itaewon クラス』のような韓国文化が、韓国では日本のストリートファッション、『いぬやしや』、『鬼滅の刃』のような日本文化が長い間人気を維持しています。私自身も中学生の時、日本のアニメを見て、将来の夢を日本人になることに決めるほど、日本が好きになりました。

しかし、文化とはことなり、政治は安定した関係を維持できていません。2019年、私が高校生だった時、前年からつづいていた外交問題のせいで、日韓貿易紛争が発生して、両国の関係は大きな危機を迎えました。両国は互いに被害を受けながら報復を繰り返しました。韓国では日本に対する認識があつという間に悪化して、日本製品のボイコット運動が大きく広がりました。現在、関係は正常化し、むしろ最近では日韓関係の歴史上、最高の関係になっています。しかし、一つ的外交問題で両国の関係がいつしゅんで悪化する可能性があることを知って、私は衝撃を受けました。

二つのしゅうだんがたいりつしているとき、私はそれぞれの立場と第三者のしてんをそうごうして、客観的な視点で問題を見ることが、基本的で、原始的ですが、一番効果的な問題解決の方法だと考えます。そのため、私は韓国で高校を卒業した後、日本ではなく、カナダに留学しました。そして、今、国際関係学を専攻しています。秋からは東京大学に交換留学をして、今度は日本の視点から日韓関係について学ぶ予定です。日韓の対立をさまざまな視点から見ることで、互いの立場の違いを理解するヒントをもらえると考えています。

韓国で日本に否定的な立場を持つ人々は、「歴史を忘れた民族に未来はない」という言葉をよく言います。もちろん、韓国と日本にはくらい過去があります。しかし、両国の歴史はふくぎつで、こうていてきなこうりゅうもありました。例えば、現在の韓国経済に重要なやくわりを果たしているサムスンやヒュンダイは、それぞれ三洋電機や三菱自動車から受け継いだ技術力をもとに成長しました。私も歴史を忘れてはいけないと思いますが、ひていてきな歴史だけにしゅうちゃくしすぎると、未来は開かれないとも思います。

日韓貿易紛争の中で、高校生だった私の夢は、韓国と日本の関係をより近く、安定的で、持続可能なものにする事になりました。そして、これが、私が留学と今の専攻をきめる大きなモチベーションにもなりました。日韓両国が過去にとらわれず、共に未来をつくっていく日が来ることを願って、私は今、夢の実現に向かって進んでいます。

University/Open Intermediate 2 位

言語と思い出の間に

マシュー・ウォン Matthew Wong

Simon Fraser University

1938年10月ばあちゃんが泣いている。誰かがわからない言語で怒鳴っている。血が出ている。中国の広東省にある開平は陥落した。

それから87年後の今、私は日本語の授業を取っています。「どうして日本語を習ってるの」というのは私にとって難しい質問です。友達や同級生には、「日本の文化に興味があるから」と言えますが家族にはその答えでは十分ではありません。

私たちにとって、歴史は教科書の中だけのものではありません。家族の話や、祖母の悲しい表情の中にあります。私の家族も、日本との戦争によってつらい経験をしました。大切な人を失い、苦しみ、怖い思いをしました。その記憶は、今でも家族の中に残っています。だから、私が日本のことを話すとき、彼らは悲しみや怒りを感じることがあります。

でも、今私は大学で家族を苦しめた言語を習っています。正直なところ少しいろめたいです。ばあちゃんは私が日本語で話しているのを聞いたらどう思うだろう。最初は自分に色々な質問をしました。「家族の歴史を裏切っているのではないか」「家族の苦しみを忘れてしまうのではないか」日本語を話すときに、「どうしてこんなことをしているのか」と心の中で小さな声が聞こえます。

でも言語は戦争でも政治でも思想でもありません。言語は文化や考え方をつなぐ橋です。文学や美術を鑑賞するために、日本語の勉強をはじめました。日本語には、中国語とは違う美しさや表現があります。例えば日本語には物の哀れという言葉があります。この考え方は仏教で重要ですが中国語には同じような言葉がありません。物の哀れ:“The sadness of things.”とても美しい表現ですね。このような日本語の考え方や文化の違いを知ることを楽しんでいます。そして、日本語を学ぶことは、新しい世界を見ることにつながっています。

私は気づきました。日本語を学ぶことは、歴史を忘れることではありません。むしろ、歴史と向き合うことです。過去の悲しみや怒りに生きていたら、私たちは前に進むことができません。でも、

お互いに分かり合おうとすれば、未来は変わるかもしれません。そのためにこれからも私は日本語を学び続けていくつもりです。

University/Open Intermediate 3 位

物おじせずに行う勇氣

キャロライン・ルッツ Caroline Lutz

University of British Columbia

皆さんは怖い経験がありますか。物おじして諦めてしまったことがありますか。逆に押し通してこの不安にもかかわらずしましたか。私はそんな経験がありますよ。しかし、この経験は私に怖いかどうかは関係ないと教えてくれました。

高校三年生の時、英会話学校でインターンシップをしました。子供の時から日本文化に興味があり、日本に引っ越したかったからでした。それで、せっかくその機会をもらったので、すぐに飛びつきました。中学で会った日本人の友達のおかげで、青森県に行けました。その友達のお父さんは英会話学校の先生で、教え方を学ばせてもらいました。授業を手伝ったり、小学生の子供と遊んだり、たいへん貴重な経験でした。しかし、いつも楽しくて簡単な時間というわけではありませんでした。正直時々緊張したり、不安に感じることもありました。

それは、初めて一人で授業を教えなければいけなかった時のことです。確かにそれまでにインターンシップの間、たくさん教え方についてノートに書いていましたが、その先生はいつもガイダンスをしてくれました。しかし、その日、私の部屋に来て、突然「今日は、君が授業をしてね」と言われ、この予期しない展開に本当にびっくりしました。二時間しかありませんでしたから、直ぐに目まぐるしくノートを復習して、落ち着こうとしました。授業の中の子供たちはいつもニコニコして全員優しいと分かっているのにもかかわらず、緊張して仕方がありませんでした。困ったことに、まったく前もってこのことを教えてもらえませんでした。

しかし、その時「待って、教えることを学びたいからこそ日本に来たんじゃない」と考えました。予期しない展開で緊張しているからと言ってこの機会を無駄にしたくありませんでした。それで、もう一度自分で書いていたノートを読んで、授業に行きました。結局、まだ教えることは苦手でしたが、それと同時に、この経験は責任感を持って教えることと教え方を上達させることができたよい機会でした。この体験学習のおかげで、勇氣を出して成長できたんじゃないかと考えています。

時々、新しい経験は怖いでしょう。私はもちろん怖かったです。しかし、怖いからこそ貴重だと思います。私の気楽な生活を出て不安や緊張を克服して成長できましたから、今日は英語の先生に

なることは私の将来の大切な夢で実現できると知っています。皆さんも勇気を出して怖い経験に物おじせず飛び出せば、絶対に面白くて美しい世界に入れると私は信じています。

では、皆さんの夢は何ですか。その夢の実現のし方を知っていますか。怖くても、是非試してみてください。そうすれば、何かできることで驚くかもしれないと思います。

聞いてくださってありがとうございます。

University/Open Advanced I 位

私のことを知っていますか？

ミラ・センブラット Meira Sembrat

University of Victoria

私のことを知っていますか？

もちろん知らないですよ。変な質問でしたね。自己紹介をさせてください。私の名前はミラです。23歳で、ビクトリア大学の心理学部4年生です。バイオリンを弾きます。どうぞよろしくお願いします。

では、もう一度聞きます。私のことを知っていますか？

私は自分のことを話しましたね。名前を言いましたし、皆さんは私の見た目を見ました。でも、本当に私のことを知っていますか？

別の質問をさせてください。「人を知るとはということだと思いませんか。」

その人の一番大きな夢、一番怖いと思うものを知ることでしょうか。「この人のことを本当に知っている」と言えるようになるまで、どれくらい時間がかかるのでしょうか？1年？一生？でも、それが本当なら、どうやって私たちは誰かを本当に知ることができるのでしょうか。皆さん、自分にとって何が一番怖いか、自分の夢を、他人に話しましたか。私か何が一番怖いかを話したら、皆さんは私を知っていることになるのでしょうか？

そもそも私たちは自分自身を知っているのでしょうか？

私たちは、自分がそうだと考えている通りの人なのでしょうか。また、他人からそうなるように言われているのでしょうか。

あるいは、私たちは自分の記憶そのものなのでしょうか。私たちの性格は経験によって作られるからです。

それとも、私たちは自分の選択や決定や行動そのものなののでしょうか。そのことによって他人からどう見られるかが変わるから、自分自身をどう見るかも変わるのかもしれませんが。

これらは全て、これら自分を説明する方法ですが、私には、変化と不安定のとときにこそ、私たちは本当の自分自身について学ぶことができるのだと思います。

もう一度、自己紹介をさせてください。私の名前はミラです。23歳で、ビクトリア大学の心理学部4年生です。バイオリンを弾きます。そして、私は人前で話すのがとても怖いです。母国語ではない言語でスピーチをし、評価されることか、私にとって一番怖いことです。しかし、私の一番の夢は、それを乗り越える勇気を見つけることです。

これを皆さんに話した今、私のことを知っていますか？「本当の私」を。私も本当の私のことを知りたいです。だからこそ、私はこのスピーチをしているのです。

不安になることは、私の人生において多くの問題を引き起こしてきました。特に、新しい人と話すときや、クラスで発表するときに。それを変えたいです。私になりたい自分は、このスピーチを怖がらずにできる人です。しかし、私はまだその人になっていないと思います。将来、私もそのような人間になれることを願っています。これは未来への第一歩です。この経験を通して、私は自分自身についてもっと知ることができます。ありがとうございました。

University/Open Advanced 2位

気づかなかったその懐かしい記憶

ラン・モ Ran Mo

University of British Columbia

皆さん、人生の中に最も懐かしい記憶を覚えられるですか。私がいつも懐かしく思い出すのは小学校三年生の冬休みの時のことです。両親が目を覚ます前に居間に静かに入り、クリスマスに開けるはずのプレゼントの包装紙を破らないように、新ポケモンゲームをそっと取り出しました。中身が何かも私はすでに知っていました。ソファの一番心地よい所に座り、両親の目覚まし時計が聞こえる時まで一人で遊びました。あの静かな場所のすべての感覚を今でも鮮やかに覚えていてます。遠くにいるカラスの落ち着かせる鳴き声、鋭いほど寒い空気の爽やかな香り、体にしっかりと巻き付いている毛布の柔らかい感触。今思えば、その瞬間こそ、私はこの上なく幸せだと思っていました。

しかし、小学校の頃の私はこの幸せな瞬間にあまり気づきませんでした。なぜならその頃、「外」という魔界と戦っていたのです。今でもその不愉快な感覚を忘れられません。学校に近づくと朝っぱらから騒々しい小学生の叫び声、小さすぎる教室の熱く息苦しい空気の臭い、体育授業の

後の汗で肌に張り付いたシャツの嫌な感触。家を出かける時から、学校の最後のベルが鳴る音が聞こえる時まで、ずっと考えていたのはただ一つ：「帰りたい」でした。課外活動を一つもせず、学校が終わるとすぐ家に帰り、寝る時間が来るまでゲームをしました。高校性になったらきっと外の恐怖を乗り越えられ、周りの人々のような外の生活が楽しめるようになるだろうと信じていましたが、高校に入ると小学校の頃と同じように、外の不愉快さに慣れずに学校が終わるとすぐ家に帰って一人でゲームをしました。

顧みるとあの頃の私の人生の大部分は家にいましたから外ならではの楽しさを知らずに、学校の退屈さしか見えなかったのかもしれませんが、しかし、いつも外の生活を楽しんでいるように見えた友達と比べると私は場違いだと感じていたのです。目立たないように彼らと同様に外が好きふりをしようとはしましたが、やはり彼らのような外に対する憧れに共感できませんでした。結局コロナ禍を理由に、外の生活になじめなかった私は外から逃げて、引きこもりになってしまいました。引きこもりという現象の原因はよく理解されていませんが、精神障害を伴うことが多い、とりわけうつ病です。引きこもりの精神的な影響を知らなかった私もうつ病を発生し、その時ずっと悪夢にとらわれたような絶望感が心の中に満ちていました。

しかし、今の私に「高校時代はどうだったか」と聞いたら、多分「悪くなかった」と答えるでしょう。もちろんその時の意欲も自信もない無力感や両親の失望した顔を生々しく覚えられています。けれど、それらの暗い記憶だけを覚えているわけではありません。例え、フランス語の授業中に面白い冗談を言ってクラス全員を笑わせたその瞬間に感じた喜び。コロナ禍の間に筋トレを始め、数ヶ月後に鏡に映る私の体に進歩が見えたその瞬間に感じた自信。最初のパワーリフティングの試合に勝った時に両親の涙を浮かべた微笑みを見てその瞬間に感じた誇り。このように人生で最も辛い時に小さく幸せな記憶を集めたため、外に対する恐怖が少しずつなくなり、やがて私は引きこもり状態から回復しました。

心理学的に言えば、私の記憶は「思い出補正」という現象；過去の記憶を実際より懐かしくする傾向の影響を受けているかもしれません。もしかすると実際、小学校の冬休みの時の私は今の私が思っているほど幸せではなかったかもしれません。しかし、私は構いません。なぜなら過去の辛い記憶に悩まざるを得ないなら、その記憶を懐かしく変化する方がよいのではないのでしょうか。例え今はストレスがたまりすぎて、世界が滅びる寸前のように感じて、時間が経つにつれて、その時の記憶を懐かしく思い出せるようになるまで、記憶に連想している負の感情を無意識に清めるという力は現在の私に将来への希望を与えてくれます。期末試験の失敗であれ、精神障害の発生であれ、愛した人の死亡であれ、いずれそれらの悪夢のような時を思い出して、その中に気づかなかつた懐かしい記憶を感じられる日がきっと来ると信じています。

ご清聴ありがとうございました。

居場所探しの意義

コト・シ Koto Shi

University of British Columbia

私は、人生とは自分の居場所を探す長い旅だと思っています。

人は様々な人生経験を通して、自分に合った居場所を探すと同時に、自分自身をより深く知ろうとしているのではないかと私はおもいます。

しかし、居場所探しの旅は決して簡単ではありません。

自分に合っていない居場所のために自分を偽ったり、仲間外れにされたり、利用されたりして、「嗚呼っ、私の居場所はここじゃないんだ」と思う時もあります。

そんな失敗の経験を SNS 上で自分が「病んだ」と発言している人を私は多く見かけました。

「病む」という言葉の定義は、人によって違います。

親しい人と喧嘩して分かり合えない人、自分を認めて貰えない人、心が疲れている人、トラウマを抱えている人、薬物の過剰摂取、いわゆるオーバードースなどをしている人など、全てインターネット上で「病んでいる」と呼べます。

私の友達も病んでいる時がありました。その友達が精神的に辛い時に見つけたのが SNS での「居場所」でした。私も高校の時に、SNS で居場所を見つけました。もしあの時、SNS で居場所を見つけていなかったら、好きな事ができている今の私はいなかったかもしれません。

私や私の友達のように、現実世界で周囲に認めて貰えず、SNS で自分の居場所を探す人は少なくありません。彼らはこの国境のない SNS の世界で、ハッシュタグや文書、写真や動画の投稿などを通して、自分を認めてくれる人、愛してくれる人、自分の承認欲求を受け止めてくれる人を探しています。SNS が、彼らの居場所となり、自分の本当の感情を吐き出せる場所として、彼らを「病んでいる」状態から解放していると、私は考えています。

しかし、SNS には誹謗中傷や人間関係の危険が伴います。特に青少年には強い影響を与える可能性があります。

SNS で「認められたい」という軽い気持ちで投稿したものが、受け入れられ無かった場合、それに伴う誹謗中傷は非常に恐ろしいものです。現実と違って、SNS では匿名性があるため、場合によって非常に酷い誹謗中傷に一人で向き合わなければならない事もあります。私も、知り合いが誹謗中傷により、精神的に深い傷を負った人がいます。そのような誹謗中傷によって、不安定な精神状態が悪化し、最悪の場合、自殺に至ってしまう人もいます。日本の厚生労働省と文部科

学省の発表によると、小中高生の自殺は前年度と比べ、約 5 万件も増え、過去最多を記録しました。その要因の一つとして、SNS での誹謗中傷も含まれています。

誹謗中傷がなくても、SNS 上で信頼している話し相手が危険だったり、問題のある人物かもしれない事もあります。

例えばコロナの時に歌舞伎町に出没する家出少年少女達が SNS 上で話題になりました。彼らは SNS 経由で知り合い、歌舞伎町で自分の「居場所」を作り上げ、違法薬物、グレーゾーン営業で生計を立てています。彼らにとって、SNS は彼らに悪い家庭や周りの環境から逃げられる居場所を与えました。しかし、世間では彼らは批判の対象となり、「未来が無い」と考えられています。

居場所探しには確かに危険を伴います。しかし、それも一つの人生経験と言えるのではないのでしょうか。SNS は世界を広げ、私達に新しい居場所を作ってくれました。とはいえ、SNS は諸刃の剣になることは忘れてはいけません。だからこそ、私達は何を大切にすべきかを、しっかり考えなければなりません。長い人生の居場所探しの旅で、私が思う一番大切な事は、現実世界や SNS で、本当に自分の事を理解し、大事にしてくれる人と一緒に良い関係を築くことです。

University/Open Open 2 位

未完成の花期

藤原憐子 Yoshiko Fujiwara

Simon Fraser University

春の街角は、白と薄紅色の桜の花弁が雪のように舞い散り、すべてを覆い尽くすかのようです。その驚くほどの美しさは、人々の心を浮き立たせると同時に、どこか切ない想いを呼び起こします。花期が短いため、そよ風が吹くだけであっという間に桜吹雪となります。

同じく花の儂さを感じさせるのは、鎌倉の紫陽花です。夏の頃、青い花や紫の花が幾重にも重なり合い、一面が花の海のようになります。それはまた、目を見張るほどの美しい景色です。鎌倉は武家政権(ぶけせいけん)の始まりの地ですが、同時に、多くの花のように儂い命と理想がここで散りました。木曾義仲(きそ よしなか)の長子である義高(よしたか)と、源頼朝(みなもと の よりとも)の長女、大姫(おおひめ)の悲しい恋の結末も、この地で幕を閉じました。

彼らは、幼い頃に婚約を結びましたが、政治的な対立に引き裂かれました。義高が十二歳で乱世の犠牲となり、大姫は彼の首級(しゅきゅう)が桶に入れられて運ばれてくるのを目の当たりにし、悲しみに沈みました。成人した後も義高への想いを捨てきれず、天皇との縁談を拒(こば)み続け、そのまま二十歳の若さで世を去りました。

多くの人は「時代の波には逆らえない」と思っています。しかし、悲劇的な別れを迎えたからこそ、物語は最も美しくて儂い瞬間に閉じ込められ、「咲く前に散った花」の印象を残します。長谷寺の紫陽花も、彼らの別離に静かに寄り添いながら、風に揺れるたびに、無言に嘆いています。

紫陽花の話になると、私は現代の「まだ願いを果たせなかった」ある人物を思い出します。その方は崇高な理想を抱きながらも、権力争いに翻弄され、世に埋もれて政治の世界から退きました。そして、晩年はひとり静かに日々を過ごしました。時代の奔流の中で、個人の運命など時に儂く、花の蕾が開き切る前に散ってしまうように、儂いまま消えていくこともあります。しかし、だからこそ、その存在はより深く人々の記憶に刻まれるのでしょう。

中国文学の傑作、『紅樓夢』(こうろうむ)*という小説の主人公・林黛玉(りん たいぎょく)と賈宝玉(か ほうぎょく)、二人の恋も結実することなく、しかし、感動的な物語を残しました。黛玉は体が弱くて繊細(せんさい)な女性で、詩を書く才能に優(すぐ)ています。何度も訪れる波乱(はらん)の中で身をやつし、宝玉と宝釵(ほうさい)*が結婚した夜、孤独の中、息(いき)絶(た)えます。黛玉は、多くの人々から「昔の基準で見れば良妻賢母(りょうさいけんぼ)にはほど遠いし、現代の価値観で見ても職業婦人としては不向きだ」という、あまりにも功利的な偏見を押しつけられ、「もはや生き抜くことはできないのではないか」とまで言われました。この悲劇によって、むしろ、彼女は特別な存在となり、永遠に刻印されました。それは、まるで春の桜の如(ごと)き美しさです。

私は花弁が静かに舞い落ちる様子を眺めるのが好きです。そして、こうした「叶わなかった」物語を思い出します。大姫と義高の運命、黛玉の早世(そうせい)ゆえの儂さ、抱いた志を果たせず散ったあの人物・・・胸に少し痛みを伴いながらも、鮮明に記憶に刻まれます。

暮春の頃、風に揺れる花色は、まだ知らぬ宿命を映(うつ)しているように感じられます——あたかも、ある人たちは「咲く」ことが叶わないまま、その完全ではない姿を永遠の嘆きとして残します。花弁一枚一枚にも、それぞれに刹那(せつな)の輝きがあったのだと思えば、時の流れの中に、悠然と舞い落ちていくように感じられます。満開の桜を見ると、鎌倉の紫陽花を思い出し、歴史の深い闇に散っていった数々(かずかず)の物語にも想いを馳(は)せずにはいられません。人生の花期も同じかもしれません。短い時間の中であっても、全力で咲き誇るのならば、未完成のまま散っても、その輝きは決して無駄になることはないのです。

ご清聴ありがとうございました。

*『紅樓夢』(こうろうむ)：中国の四大名著の一つで、清の時代に書かれた長編小説です。他の三つは『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』

*薛宝釵(せつ ほうさい)：賈宝玉の許嫁となります。温和で理知的な性格を持ち、家族の期待に応えようとするが、賈宝玉との関係は冷淡であり、林黛玉との対比が際立ちます。小説の中では、社会的な価値観に適應する「理想的な女性」として描かれるが、自身の内面には複雑な感情も秘められています。